

# 経済為替ニュース

SUMITOMO MITSUI TRUST BANK, LIMITED FX NEWS

第2308号 2016年05月09日（月曜日）

## 《 Ali al-Naimi to be replaced 》

この週末にも様々なニュースが出ている。サウジアラビアは在任20年のヌアイミ石油鉱物資源相を退任させ、後任にファリハ保健相を起用した。これは同国が着手した「経済政策を“脱石油”に大きく舵を切る」方針の一環だし、一方で中国は4月の貿易統計を日曜日に発表。それによると輸出・輸入とも予想より減少した。これは依然として中国の経済活動が戻っていないことを示した。

アメリカ経済に関しては、先週金曜日に発表された4月の雇用統計が今後の金融政策を見通す上で重要だった。中味は、賃金は上昇したが雇用者数は予想（20万強）に届かなかったというもの。16万人という非農業部門就業者数の増加幅で、これは過去7ヶ月で最小だった。失業率は5%で変わらず。今の世界で唯一のエンジンとも言えるアメリカ経済に「踊り場の兆候」が明確になってきたということだ。第一・四半期の成長率の大幅鈍化（プラス0.5%）などに既に出てきていた傾向が鮮明になった。

部門別で弱さが明確になったのは小売り。今までは就業増をけん引してきたが、4月はマイナスに転落した。小売業の雇用の吸収力が弱まっており、むしろ同業界での雇用が減少を始めたと言うことは、米経済の7割を占める消費の弱さを反映していると言える。資源安の影響でエネルギー産業も雇用減が続いている。

強まったのは「6月もFOMCによる利上げはない」という観測だ。ある調査によると、今年の利上げに関してアメリカでのエコノミストの見方は、「あっても9月か12月に一回」という見方に傾きつつあるようだ。言えるのは、アメリカ経済そのものが今は踊り場で利上げを断行するにはやや雰囲気が悪くなっている、ということだと思う。「6月は無論利上げはない」との観測が高い。こうした「利上げ先送り」観測は、今年に入ってドルが貿易加重平均で4.5%も下落する一つの大きな要因になっている。

もっとも、6月のFOMCは14日と15日に開催されるので、それまでには5月分の雇用統計も発表される。仮にこれが20万を遙かに超えるような非農業部門就業者数の増加幅になったら、FOMCの視点も大きく変わる。だから簡単に「もう暫く米利上げはない」との結論に達するのは時期尚早だと思う。とりあえず今週は米経済について言えば、小売売上高、鉱工業生産指数、それにFRBの高官の講演などに注目と言うことになる。

マーケットの4月雇用統計に対する反応は複雑だった。株もドルも最初は下げて、ダウ平均は100ドル近く、ドルは対円で106円台の半ばまで落ちた。しかしその後はとも

に戻して80ドル弱、107円ちょいで終わった。先週は日本を含めて世界各国で連休が多かったこともあり、マーケットの本当の意味での反応が出るのは今週からだと思われる。注目点は軟弱な日本のマーケットを横目に史上最高値に再び近づいたアメリカの株価が高値を維持し、さらに上値を追えるのか。それとも再び弱くなるのか。また107円台より円安に行かなくなったドル・円相場がもう一度下を試すのかでしょう。

やはりドルの先行きは「アメリカの利上げ」に関する観測に大きく依存している。それを決めるFRBに関しては、この週末に「私が当選したらイエレン議長は再任しない」とのトランプ共和党大統領候補（事実上の）の発言も伝わった。同議長の任期は2018年までであるので早急な問題ではないし、議長（民主党員）も雑音程度にしか聞いていないだろう。しかしトランプは「私は低金利を図るイエレン議長の政策を指示する。高金利になればドルが高くなってアメリカの競争力に打撃になるし、金利高は政府の債務不安を増やす」とも発言している。トランプの金利やドルに対する考え方が窺えて興味深い。支持するが再任しないという彼らしい矛盾した発言だ。

### 《 to be ugliest election 》

これまで米大統領選挙に関してあまり書いてこなかったので少し触れると、事実上今年の米大統領選挙は「共和党トランプ、民主党クリントン」の戦いになる。そしてその選挙は「to be ugliest election in modern US history」(FT)となるだろう。トランプのこれまでの言動からして、彼はクリントンを口汚く罵ることが予想され、対してクリントンもトランプをこき下ろすだろう。ポイントはサンダースがクリントンに対して行った「こころろ立場を都合良く変える」「適任ではない」という攻撃。確かにTPPが良い例で、トランプも「嫌われキャラの女＝クリント」「日和見主義者」と言うところを攻めるはずだ。

対してクリントンは「そもそもトランプには大統領になる資格がない。核のボタンを持たせられるような男ではない」「何ら具体的な政策がない」という点を攻撃する筈だ。もっともその前に女性やイスラム教徒に対するトランプの発言を激しく非難するだろう。そこでは激しい言葉の応酬となり、結果的に世界最強の国家のトップを決める選挙としては「最もおぞましい選挙」になる危険性がある。それでも日本を含め世界の人間はアメリカの大統領選挙に対する発言権はゼロだ。

情勢はどうか。筆者はクリントン有利とみる。女性とヒスパニックの票はなかなかトランプには傾きがたいとみているからだし、最後は今までの選挙戦は「エンタメ」だったとしても、本当に大統領を選ぶときには「誰が相応しいか」をアメリカ国民も考えるだろうからだ。事実上共和党の候補に決まっても、トランプには「党内主流派の支持」が集まらない。事実上の党のトップのライアン下院議長は、「まだ私にはトランプ氏を支持する用意が出来ていない」と述べている。これに対してトランプは「彼には代わってもらっても知れない」とけんか腰だ。この二人は今週初めに会談する。

「7月の共和党大会には出ない」という共和党有力者も多い。パパブッシュとジョージの

二人の大統領経験者、それに最近までトランプと争ったジェブ・ブッシュは「出ない」と言っている。大統領経験者が党大会に出ないというのは、病気などのケースを除けば例がないと思う。ロムニー前共和党大統領候補も「出ない」と言っている。それほど党主流派に毛嫌いされているドナルド・トランプが、予備選・党員集会の段階で他を寄せ付けず“候補”になったと言うこと自体が「共和党の分裂、分断」を意味している。多分この共和党の主流派に近い考え方の米国民の中にも、「クリントンに投票」という人がかなり出てくると思える。

当面クリントンにとって最大の懸念材料は、国務長官の時に公務に私用メールアドレスを使っていた問題で近く FBI から聴取を受ける予定である事だ。この段階でクリントンの支持率を大きく落とすような事態への発展はなかなか予想しがたい。それは直ちに「トランプ大統領」の誕生を意味するからだ。それはアメリカのエスタブリッシュメントの中でも嫌がる人が多いだろう。しかしアメリカはしばしば予想を超えた国だ。筆者は私用メール問題を乗り越えられれば、クリントン大統領誕生の可能性の方がトランプ大統領誕生の可能性よりかるかに高いとみている。

- - - - -

最初に取り上げた「ヌアイミ石油鉱物資源相の退任、後任にファリハ保健相を起用」は、経済政策を統括するムハンマド副皇太子による「脱・石油依存」に向けた改革の一環だ。サルマン国王による息子のムハンマド副皇太子への支援と考えられる。ファリハ氏は8日に「安定的な原油政策を維持する」と表明。同氏は「ヌアイミ氏の下で長く国営石油会社サウジアラムコを率いており、市場シェア維持を優先する路線に変わりはない見通しだ」と日経。

しかし「ヌアイミは OPEC を知っており、OPEC もヌアイミを知っている」という状況からは大きな変化だ。そしてそれは恐らく、サウジが中東のライバルであるイランに対する姿勢を硬化させることを意味する。恐らく石油市場での「サウジのシェア維持」が優先され、価格維持の為にイランとも協力という道を閉ざすものと思われる。当面はこの問題でのロシアとサウジの関係がどう動くかだ。

ムハンマド副皇太子は4月末に、向こう15年の経済改革の道筋を示す「ビジョン2030」を公表。アラムコを株式上場させて2兆ドル（約220兆円）超の企業価値を生み出す方針を明らかにした。つまり彼が今後のサウジの経済政策を仕切るということだ。こうした中でヌアイミ石油相の更迭が決まった。同副皇太子は国防相も兼ね、今のサウジ王室の中で急速に権限を集めている。注目すべき人物だと言える。

- - - - -

中国の4月の貿易統計は輸出が1.8%減（予想は0.1%減）、対して輸入は10.9%減（同5%減）というもの。中国の貿易は2月までしばらく縮小傾向が続いていたが、3月には輸出が11.5%も増えて「トレンド転換か」とも思われていた。しかし4月が再び輸出入ともに予想以上の減少となったことから、「(中国経済は) 落ち着きは取り戻しつ

つあるが、依然として低迷」というのが当たっている。もっとも輸入の方が大きく減少したため、今年4月の中国の貿易収支は460億ドルの黒と、昨年同月の340億ドルの黒字から増加した。

-----  
今週の主な予定は以下の通り。

05月09日（月曜日）	3月毎月勤労統計 4月消費動向調査 ユーロ圏臨時財務相会合
05月10日（火曜日）	4月新車販売ランキング 中国4月消費者物価・卸売物価 米3月卸売売上高
05月11日（水曜日）	4月外貨準備高 3月景気動向指数 9日時点の給油所の石油製品価格 米4月財政収支
05月12日（木曜日）	3月国際収支 4月貸出・預金動向 4月企業倒産 4月景気ウォッチャー調査 米4月輸出入物価指数
05月13日（金曜日）	4月マネーストック 黒田日銀総裁が講演 3月第3次産業活動指数 韓国中銀の金融通貨委員会 欧州4月新車販売 米4月小売売上高 米4月卸売物価 米3月企業在庫 米5月ミシガン大学消費者態度指数速報値 2016年3月期決算発表のピーク

この中では「9日のユーロ圏臨時財務相会合」に注意すべきかも知れない。ギリシャへの追加融資が検討される模様だが、そのギリシャでは再び年金切り下げ・増税に反対する規模の大きなデモが起きており、その中で議会は緊縮策を早急に可決する必要がある。仮に可決されなければ、既に財政が行き詰まっているギリシャについて、再び危機が訪れる危険性がある。スペインやポルトガルにも政治などの分野で危機は広がっており、引き続き

欧州の南の地域には不安感が強い。

### 《 have a nice week 》

連休後半はいかがでしたか。天気はまずまずでした。ただし「熊本に雨」と聞くとこちらでも緊張する。しばらく警戒を続ける必要がありそうです。筆者は7日は大阪に講演会があって新幹線移動しましたが、やはり東京行きが混んでいました。今日からは道も鉄道も通常に戻る。体調を整えて一週間を過ごしたいものです。

-----  
ところでベトナム話の続きですが、なんとダナンには日本の温泉施設に近い「花の湯」と言うスーパー銭湯が出来ていました。結構立派でサウナもある。「ベトナムには火山はない」というのがベトナム人ツアコンの説明なので、多分自然温泉ではない。多分わき水か何かを温めているのだと思う。この施設があるホテル (Blossom) の一角にあって、中の施設は充実している。サウナもある。立派な待合室もあり、風呂上がりはそこで休める。

このホテルに宿泊していなくても、例えば飛行機の待ち時間などで使える。私たちがそうでした。兎に角ベトナムは暑い。マープル・マウンテン (五行山) などに登ると汗だくです。その後に市内のこの「花の湯」に入れば飛行機に乗る前に快適になれる。まだネットでもこのお風呂についてはあまり載っていない。つまりごく最近の営業開始だと思う。一人当たり30000ドンですが、ベトナムの通貨は下のゼロ二つをとって二で割ると円価が出る。1500円です。法外ではない。風呂も大きくて温度も40.5度くらい。洗い場も五つくらいあって、従業員も親切。

それにしても、このお風呂もそうですが、最近は何の国に行ってもホテルなどに泊まっているとしばしば「ここはどこだ」と思う。世界中のホテルの中は似てきている。どこにいても、レストランなどではスマホに目をやるお客がいて、私もそうだが、しばしば自分の世界に入る。「日常」を運びながら旅行している。

だから例えば「戦国時代に日本に来た宣教師」には我々はなれない。彼等は「何が起こるか全く分からない」中を旅した。待ち受けているものは「死」かもしれない。事前には分からなかった。情報は希薄だった。加えて、自分が出発した国のその後の事情を知るすべもない。つまり昔の旅人は「今」と「その場」を旅するしかなかった。しかし今の我々は「今世界で何が起きているか」を瞬時瞬時に知りながら旅をする。敢えて切り離せば良いが、なかなかそれは出来ない。やはり「熊本の天気」が気になる。

交通手段の進歩もあって我々は「はるか彼方」(昔に比べれば)に旅が出来ている。しかし逆に「うっすらと知っている、情報のある場所」を旅している。もの凄い驚きや感動、それに恐怖はあまりない。だから最近私は旅先の事をあまり調べないで行くことにしている。調べると感動が薄れる気がする。しかし「どこに行くべきか」などは調べないと。ただし「seeing is believing」ということは言える。臭いを感じ、360度の広角で自分の目で場を見て雰囲気を感じ...そして少しでも現地の人間と交歓する。それが必要。

そういう意味では今回ベトナムも短かった。もうちょっと長ければ、新しい発見があったかも知れない。またのチャンスを模索します。

それでは皆様には良い一週間をお過ごし下さい。

《当「ニュース」は三井住友トラスト基礎研究所主席研究員の伊藤(E-mail ycaster@gol.com)の相場見解を記したものであり、三井住友信託銀行の見通しとは必ずしも一致しません。本ニュースのデータは各種の情報源から入手したものです。正確性、完全性を全面的に保証するものではありません。また、作成時点で入手可能なデータに基づき経済・金融情報を提供するものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定はお客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。》